



新校舎の紹介

昭和22年5月、中学校が発足、同25年4月に高等学校が発足して以来、本校の校舎校地は旧軍隊の施設で一時使用の許可を得たものを使用してきた。

旧軍隊の兵舎は明治23年建築のもので、学校教育の場としては不適當で運営上幾多の困難に遭遇した。

時には、屋根からすべり落ちるかわらにキモをつぶし、雨もりや家ダニなどにもなやまされたことがしばしばであった。

昭和23年から校地の整理を行い、区かく整理、給排水の工事、プールの新設等主として運動場の整備を実施した。

昭和26年12月8日に校地1万1千坪が本校用地として認められ、長年の校地問題が先ず解決した。

次いで、同36年に国立文教施設整備費で校舎6百20坪が建築され、37年度同予算で530坪の特別教室が新築された。

更に、38年度予算で中学校の教室810坪新築をお願いしている。

以上のような経過をたどって、東京教育大学附属駒場中学校、同高等学校は着々整備が進行している。

思えば、発足してから20年近くの年月を要しており、生きた学校の環境整理ということとは、学校の教育活動がある限りは続く問題である。

1963年1月

(梅沢力夫)